

●鹿内 博 青森市長に聞く—— ねぶたと街づくり 「ねぶたのまち・青森市」の 知名度を大いに活用

ねぶたの活用は 正しい伝承があつてこそ

市長になって驚いたのは、県外に出かけた際、名刺を出さなくても、「ねぶたの青森市ですね」と言ってもらえることです。多くの市町村は、「私たちの街は何々の街です」と言えるものを探したり、つくり出したりすることに苦勞しているわけですが、青森市はそれが不要ない。これは大きいことです。企業誘致などで青森市をPRする際も、ねぶたという話の導入口があるので他のさまざまな魅力をアピールしやすいわけです。「実はねぶただけじゃないんです。あれもありません、これもありません」という形です。ねぶたの話から棟方志功の話、囃子の話から津軽三味線の話と、ど

んどん話題を広げることができま
す。このように、いい意味でねぶたを
利用していますが、この知名度を今
以上にさまざまな面で活用していき
たいと思っています。

そのためには、街づくりの面でも、
青森の街に降り立った時、「ああ、ね
ぶたの街なんだな」と思えるように
していきたい。それは新しく建物やイ
ベントをつくるということではなく、
街のあちこちから漂う雰囲気とか風
情という意味です。

ねぶたの活用とは、ねぶたを安売
りすることではありません。ただ有
名になって人が集まればいいではな
く、ねぶた本来の姿をきちんと伝承
し、ねぶたへの市民の誇りを街づくり
やPRのさまざまな面で表現してい
くということ。保存と伝承という裏

いう元気が出る。我々が伝承してき
た文化は、全国にいるいるところで、
本当に賞められていっているんです。私も
市長になるまではあまり知りません
でしたが、このことは市民に広く知っ
ていただきたいですね。

事として行われませんが、ねぶたは、民
衆の中から生まれ、市民が自由に発
展させてきた。だから、地域でも、企
業でも、愛好者が集まってもできる。
それが、これほど長いあいだ続いてき
た理由であり、全国に広がってきた
理由なのでしょう。

祭りの魅力をなす要素を
全てもっているねぶた
県外でのねぶたの熱狂は、本場に
すこいものがあります。沿道の子ども
たちが勝手に入ってきて一緒に跳ね
まわる。青森出身の人が家族や友人
と「久しぶりにねぶたを見ながら飲
もうや」とやってくる。そこには、ある
意味、ねぶたの楽しみ方の本来の姿
がある気がします。ねぶたの大きな
魅力の一つは、何より老若男女、あり
とあらゆる人が参加できることにあ
ります。ほとんどの祭りは、神社の神

要素がすべて凝縮されています。囃子
ひとつとっても、笛、太鼓、鉦(かね)
が入っていますし、跳ねるという踊り
の要素がある。さらに、人形をつくる
という芸術性ももち、しかもそれが
動くので、それぞれの場所で楽しめる。
昼も夜も行われる。こうした要素
が渾然一体となって、理屈ではなく人
の血を沸き立たせる不思議な力をも
つ。それがねぶたの最大の特徴であ
り、地域に関係なく人を熱狂させる
魅力なのだと思います。



鹿内 博 青森市長

付けがあつてこそその「ねぶたの街」な
のです。

そのために大きな役割を果たすの
が「ねぶたの家・ワッセ」です。ワ
ッセは、単なる観光施設ではなく、
保存・伝承の拠点と位置付けていま
す。また通年観光の受け皿でもあるわ
けですが、これもまた一年中いつでも
ねぶたが見られますということを切
り口にして、「でも、やっぱり本番です
よ。ワッセのねぶたは5台だけで動
きませんが、本番では子供ねぶたも含
めて40台近いねぶたが一緒に動くん
です」と祭り本番への集客につなげて
いく、それが大事だと思っています。

県外への広がり 遠征の意義

県外への遠征についても、まずは、

その地域の皆さんに楽しんでいただ
く、元氣になっていただく、というこ
とが第一にあるわけですが、やはりそ
れに止まらず、ねぶたをきつかけと
して、それぞれの街に青森市をPRす
る大きなチャンスであるところであ
ります。ですから、遠征から生まれた
交流の中で、ねぶたの青森市にはり
んごもホタテもあります、企業進出
の土地もあります、大学もあります、
と全てを売り込んでいくことが重要
だと考えています。

また私は遠征するたびに思うので
すが、「ねぶたは素晴らしい」「青森
がんばれ」と言ってもらうことで、私
たちのほうが元氣や勇氣をもらって
いる気がします。それで私たちはねぶ
たにいつそう誇りをもちたいことがで
きるし、また他の地域へもかけようと

●ねぶたをもっと知ってほしい



「ねぶたガイド隊」と「おべさま」を
誘導する今村孝さん

「ねぶたガイドでは、できるだけ作業の各段
階が見られるコースを組み立てます。おべ
さまでは、構造的なことの質問が多いです
ね。ねぶたは全国に誇れる祭りですから、
知らない人ももちろん、知っている人にも
もっと知ってもらいたい。何かしら発見し
て、「そうなんだ」と言ってもらったときが一
番うれいいですね」

「制作工程や、構造などを知ること、祭
り本番の楽しみ方は大きく広がりますが、
実際のねぶた小屋で制作者が説明はで
きないわけです。しかも口吻を使っていま
すから、安全を確保しながら説明をして
くれるボランティアガイドの役割は非常
に大きいのです」と鹿内市長。
「ボランティアで活動してくださる皆さん
は、やはりねぶたに誇りをもっていらっ
しゃるのだと思います。「私たちの祭りは
すこいべ」という思いですね。ですから、ガ
イドの方が増えるということは、それだけ
市民の間で、ねぶたへの愛着と、正しい伝
承が広がっているということだと思います。
ワッセランドのねぶたガイド隊も、ワ
ッセの「おべさま(物知り)」もそうであ
りますが、若い人も、女性ももっとたくさん
の人にガイドになっていただきたいですね」と
話していました。

青森市役所 本庁舎

〒030-8555 青森市中央1-22-5 ☎017(734)1111(代)
【柳川庁舎】〒038-8505 青森市柳川2-1-1 ☎017(734)1111(代)
【浪岡庁舎】〒038-1392 青森市浪岡大字浪岡字稲村101-1 ☎0172(62)1111(代)

<http://www.city.aomori.aomori.jp/>



青森ねぶたが他都市に出かけて運行することを一
般的に「遠征」と言います。また遠征とは別に、ねぶ
たを探り入れた新しい祭りが全国各地で誕生し、
地域のお祭りとして根付き始めています。

(上)今年5月、盛岡市で開催された「東北六魂
祭」。(下)昨年8回目を迎えた東京都世田谷区・桜
新町商店街のねぶた祭り。例年、近隣の大学生ら
が制作したサザエさんねぶたと、青森ねぶたの競
演が見られます。

ボランティアガイドは ねぶたへの誇りの象徴

